

日本語特殊拍の表出と知覚に関する基礎的検討

－日本語母語話者と中国語母語話者の比較－

(指導教員 世木 秀明 助教授)

世木研究室 0231094 野村 尚澄

1.はじめに

特殊拍の弁別能力は、日本語を理解する上で大きく関与しており、日本語単語の約 58.9%に特殊拍が存在していると言われている。一方、中国語では同様の特殊拍は、ほとんど存在しないとされている。このようなことから、中国人の日本語学習者では、日本語特殊拍の発話、弁別が難しいとされている。

ここで、特殊拍とは、「ビール」など母音を伸ばす長母音、「沸騰」など小さいツで表される促音、「自信」などんの音で表される撥音の総称である。

本研究では、弁別的な対立がある特殊拍を含む単語に注目し、日本語を学ぶ中国語母語話者がどのように発話、弁別しているのかについて日本語母語話者と比較しながら調査・検討を行うことを目的とした。

2.刺激材料

千葉工業大学在籍の中国人留学生を対象に、特殊拍が含まれる単語の語彙調査と日本語学習年数などのアンケートを行い、85%以上の留学生が知っている単語を実験用刺激材料とした。これを表 1 に示す。

表 1 実験で用いる刺激材料

非長母音 (短母音)	長母音	非促音	促音	非撥音	撥音
おばさん	おばあさん	来た	切った	雨季	運氣
おじさん	おじいさん	来て	切手	火事	漢字
ビール	ビール	書記	食器	理解	臨海
鳥	通り	夏期	活気	駅	延期
黒	苦勞	息	一气	谷	他人

3.実験方法

表 1 に示す刺激材料を用いて実験 1 および、実験 2 を行なった。

a). 実験 1

発話された刺激材料に含まれる特殊拍の持続時間長の測定。測定には、音声波形エディタを使用して目視により行い、特殊拍を含まない単語に比べて、対立する単語の特殊拍の持続時間がどれだけ変化しているかを伸長率として求める。

b). 実験 2

関東方言の成人男性 3 名が発話した刺激材料に含まれる特殊拍の持続時間長を、音声加工ソフト praat¹⁾を用いて 5 段階に短縮した刺激音声を作成し、これを用いた弁別実験。

被験者は、健康な聴力を持つ 20 代日本人と千葉工業大学在籍の中国人留学生の各 20 名とし、静かな部屋でヘッドフォンからの至適レベルで呈示した。

4.実験結果と考察

実験 1 の結果から、中国人留学生の特殊拍を含む単語の発話は、日本人よりも特殊拍の伸長率が大きく、そのバラツキも大きいことが示唆された。また、中国人留学生の日本語学習年数の差異による発話の違いについて検討したところ、特に促音と撥音では、日本語学習年数が長いほど日本人の発話特性に近づく傾向が観測された。

図 1 に長母音の持続時間長を変化させた刺激音声を用いた実験 2 の結果を示す。ここで、図 1 中の中国人留学生(初級者)は、日本語学習年数が 3 年未満、中国人留学生(上級者)は 3 年以上の学生である。グラフの縦軸は弁別率、横軸は特殊拍部分の短縮率を示す。

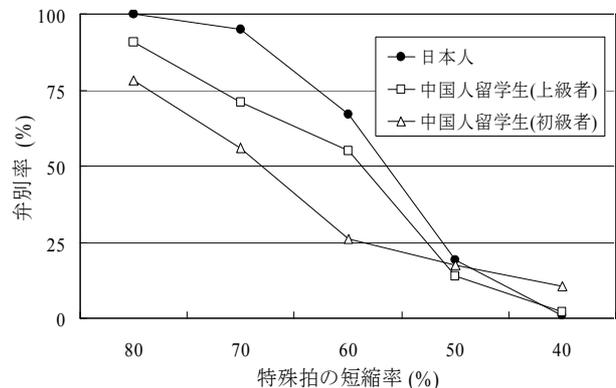


図 1 実験 2 の弁別実験の結果 (長母音)

図 1 に示す実験 2 の結果より、中国人留学生は、長母音を弁別するためには、日本人よりも長い持続時間が必要であると考えられる。また、中国人留学生の日本語学習年数が長いほど日本人の長母音弁別特性に近づく傾向が観測された。このような弁別特性は、促音、撥音でも同様であった。

以上のことから、日本語を学ぶ中国語母語話者が発話する日本語特殊拍は、日本語母語話者に比べ長く、特殊拍の弁別閾は、日本語母語話者に比べ狭いことが観測された。また、日本語学習年数が長いほど日本語母語話者の特殊拍の発話、弁別特性に近づいていく傾向が見られた。これは、日本語学習年数が長くなると、日本語母語話者のように、特殊拍をモーラの時間的長さで知覚できるようになり、母語干渉の影響が低下することで、日本語母語話者の発話、弁別特性に近づいていくのではないかと考えられる。

参考文献

1). praat のホームページ <http://www.praat.org>